

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
器楽	選択	2	3	普通科

科目の概要	年間を通して器楽/声楽実技とソルフェージュ各実技（聴音、新曲視唱）を行います。 実技活動を通して、読譜力の向上をはかります。			
教材名	教科書			
	副教材	各実技のメソッド/ コールユーブンゲン		
担当者	竹本 正治			
学習到達目標	各楽器の実技とソルフェージュ各実技（聴音、新曲視唱）を行い、読譜力と聴音力の向上をはかります。			
学習方法	視唱教材を用いて各自のレベルに合わせた方法で授業を展開します。			
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・演奏	・演奏	・授業に対する姿勢 ・技術向上の度合い
	A	・聴音能力と視唱能力を十分に身につけている。	・音楽の仕組みを十分に理解し、自己の課題を十分に認識している。	・主体的に学習活動に取り組むことができ、技術や理解度の向上が見られる。
	B	・聴音能力と視唱能力を一部分に身につけている。	・音楽の仕組みを一部分理解し、自己の課題を一部分認識している。	・やや主体的に学習活動に取り組むことができ、技術や理解度の向上がやや見られる。
	C	・上記が不十分な場合	・上記が不十分な場合	・上記が不十分な場合

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考（テスト・講習等）
4	オリエンテーション	・ 1年間の学習内容の概要、1回ごとの授業の進み方を知る	2	実技試験
	聴音の基礎と新曲視唱①	・ 楽器取り扱い、基礎的奏法	4	
5	聴音の基礎と新曲視唱②	・ 必要な技術の習得	8	
6	聴音の基礎と新曲視唱③		6	
7	聴音の基礎と新曲視唱④		6	
8	聴音の実践と新曲視唱①		6	
9	聴音の実践と新曲視唱②		6	
10	聴音の実践と新曲視唱③		8	
11	聴音の実践と問題演習①		8	
12	聴音の実践と問題演習②		6	
1	家庭学習期間			
2				
3				